

7.3 ウェブページ

本年度のWEB運営は、初年度に導入したCMS(Content Management System)機能利用を深めつつ、その周辺システムを刷新することで、情報公開ページの増大のみならず新たな公開手法を取り入れた質の高い情報公開を大いにすすめることができた。

① HP コンテンツについて

平成20年度に設置した「HP運営体制」と「コンテンツ基盤構築」を基に、コンテンツ作成を円滑にすすめることができた。

研究活動の報告

本プログラムに関する「研究活動の報告」の掲載について、和文・英文ともに継続してすすめられた。本年度は、英文中心の報告数が特に増え、和文報告数を上回った。

【研究活動報告の種類】

- ・次世代イニシアティブ成果報告
- ・若手研究者交流報告
- ・大学院派遣報告
- ・研究会活動報告（G-COEパラダイム研究会・イニシアティブ1～4、若手養成・研究部会、国際集会・国際シンポジウム、連携国際集会）

▶報告掲載数 合計：300件（和文：146件／英文：154件）

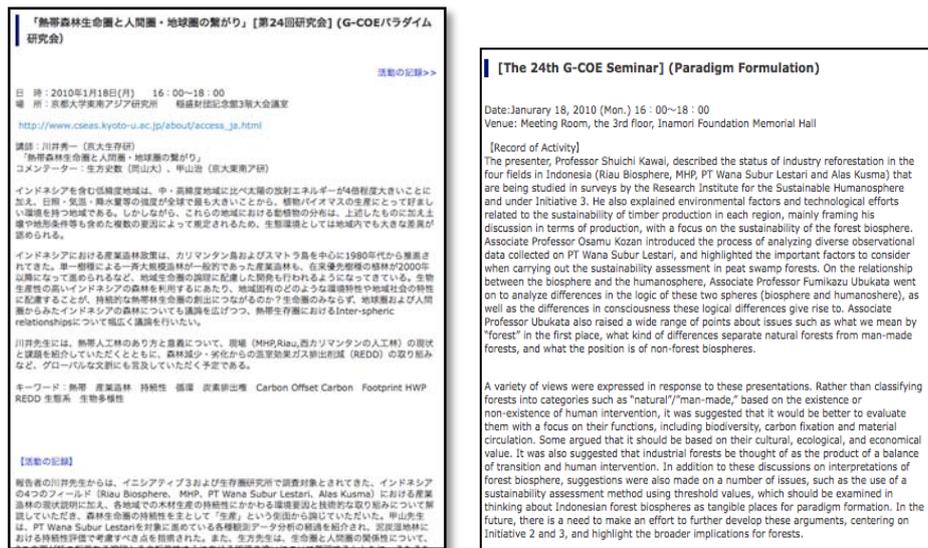


図1：研究会情報「活動の記録」左：日本語ページ 右：英文ページ

②システム構築と開発

本プログラムでは、開発した汎用システムについては広く一般公開することをポリシーとしている。そのため開発段階から開発者コミュニティと密接に連携しながら、より使いやすく汎用性のある仕組みを取り入れている。この社会貢献活動は、IT系ニュースサイトで何度か紹介されており、その認知度は日増しに高まっている。

社会貢献：GoogleMapAPI 導入と CMS プラグイン開発（第2弾）

本システムは、2008年5月に公開し、その後開発者コミュニティと共にバージョンアップが図られ、そのダウンロード数は1519にのぼる。今回、Google Map上に自前で持っている地図画像をオーバーレイすることのできるバージョン2を開発したことで、研究に必要な古地図など取り扱うことができるようになった。現在は公開に向けて調整を重ねている。

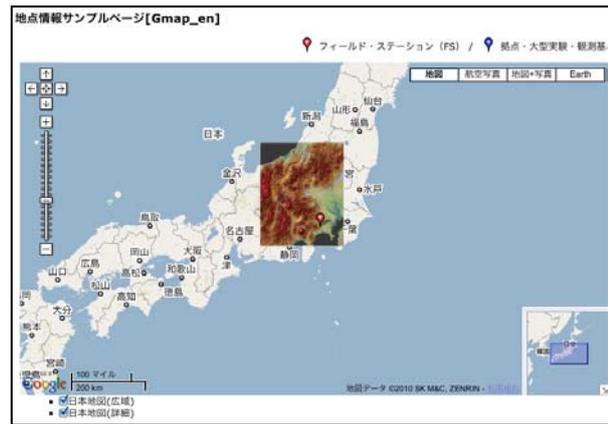


図5：地点情報サンプルページ

システム管理

2009年6月 CMS（日本語サイト）のシステムバージョンアップ

2010年1月 CMS（英語サイト）のシステムバージョンアップ

2010年2月 tkgmaps2.0.3を組み込み、Google Map上で様々な地図画像のオーバーレイが可能となった

2010年3月 新サーバへ移行し、処理能力の向上および周辺システム刷新を実施、デジタルブックの導入と実験

サーバ移行

本年度のシステム構築面において最も大きな点といえば、サーバの移転である。サーバを一新することで、今までシステムが古く利用できなかった機能が新たに使えるようになった。このことは大きなメリットである。しかしながらサーバ移転には大きなリスクも生じる。それは最新システムであるが故に、一般PCのOSバージョンアップの際に生じる互換性問題と同等の問題が生ずるからである。すなわち、既存システムがそのままでは利用できなくなることを意味する。この点は、開発者コミュニティとも連携しながら、実験と検証を積み重ねることで移行をすることができた。このことから、コミュニティとの緊密な連携と開発システムの公開は、単なる社会貢献活動であるにとどまらず、開発したシステムを生かし続けるための1つの解を提示できたといえる。

地点情報

情報基盤部会と共同で、WEB サイトから地点情報のインポートとエクスポートができるシステムおよびレイヤー表示システム（前述した **tkgmaps** のことである）を開発し、導入を行った。

前者によって、異なるデータベース間の地点を含む情報共有や地点情報の入力容易となった。今後は、このシステムを活用し、コンテンツの充実を図る予定である。

The figure illustrates the process of entering location information through a web interface. It is divided into several sections:

- CSVファイルからポイント情報を追加する**: A table with columns for '項目名' (Item Name), 'URL' (URL), and '備考' (Remarks). It lists various data sources like '東京五木' and '大阪五木'.
- 表1 各要素の詳細**: A table with columns for '項目名' (Item Name), '内容' (Content), '記入欄' (Input Field), and '備考' (Remarks). It details fields like 'ポイント名' (Point Name), '緯度' (Latitude), and '経度' (Longitude).
- GeoServerからポイント情報を追加する**: A code snippet showing the process of importing data from GeoServer into the system.
- 主要レイヤー一括追加**: A screenshot of a map interface showing a location in Japan with coordinates (37.5, 140.8) and a label 'name'. Below the map is a table with columns for '項目名' (Item Name) and '内容' (Content), listing items like 'id', 'name', and 'description'.

図6：地点情報入力手順書

③その他：インターネットを扱った広報活動

メールマガジン

アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）よりメールマガジン配信がすすめられている「アジア・アフリカ地域研究情報マガジン」について、2008年9月から発行協力を開始した。

- メールマガジンタイトル：アジア・アフリカ地域研究情報マガジン
- メールマガジン URL：<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kaikaku/index.html>
- 発行周期：月刊
- 発行部数（購読申し込み数）：1005

メールマガジンの内容には、ASAFAS 活動情報の他、本プログラムの HP にて掲載された報告紹介や研究活動などが掲載されている。

④ウェブサイト解析と今後の課題

ウェブサイトのページ数

解析期間：2007年11月30日～2010年3月31日

日本語ページ数：1,714 ページ 英語ページ：851 ページ

➤ 総ページ数：2,565 ページ

アクセス数(日本語・英語ページ)

[解析期間]

日本語ページ：2007年11月30日～2010年3月31日

英語ページ：2008年1月28日～2010年3月31日

※解析ツール：Google Analytics (<http://www.google.com/analytics/ja-JP/index.html>)

[セッション：訪問者数]

日本語ページ：77,326 英語ページ：22,349

➤ 訪問者総数：99,675

[ページビュー：ページ閲覧数]

日本語ページ：497,233 英語ページ：109,046

➤ ページ閲覧総数：606,279

[Google Pagerank での評価]

➤ 6/10

本サイトへの、「セッション」「ページビュー」ともに多くの数が示された。

また、Google Pagerank(ページランク)評価においても、6/10 という値がしめされた。これは、SEO 対策の効果であり、HP 運営が軌道に乗り、本サイトへのニーズが高くなっていると述べられる。

さらに、初年度解析(図6)では、海外から訪問された国の種類が42カ国であったのが、本年度(図7)では、136カ国に増えている。これは、世界からも本サイトに多くの関心がよせられていると述べられる。

また、「海外からの訪問者」解析の他に、図9「海外からの閲覧状況」からは、「滞在時間」と「ページ閲覧数」の双方の数を表示することにより、閲覧頻度が高い国について注目することができる。こういった、別要素からの視点に於いても解析をおこない、WEB構成の取り組みをすすめる予定である。

[海外からの訪問者：国別の割合と訪問者数]

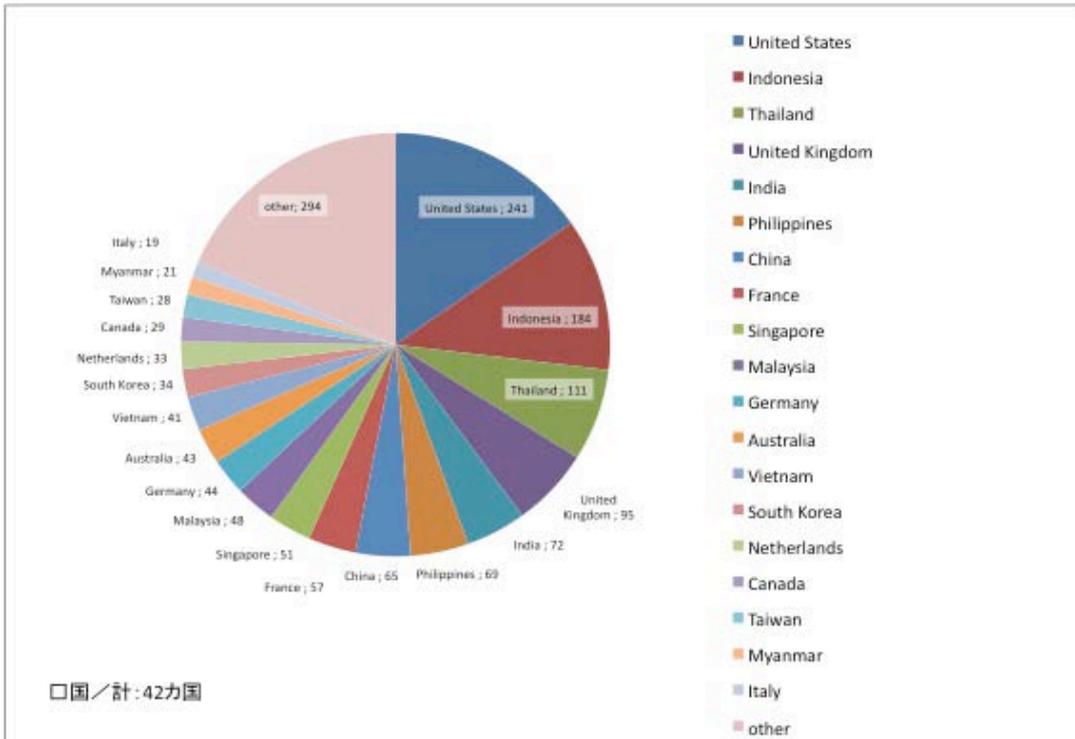


図 7：海外からの訪問者（平成 19 年度）（英語ページ解析）
（英語サイト解析）

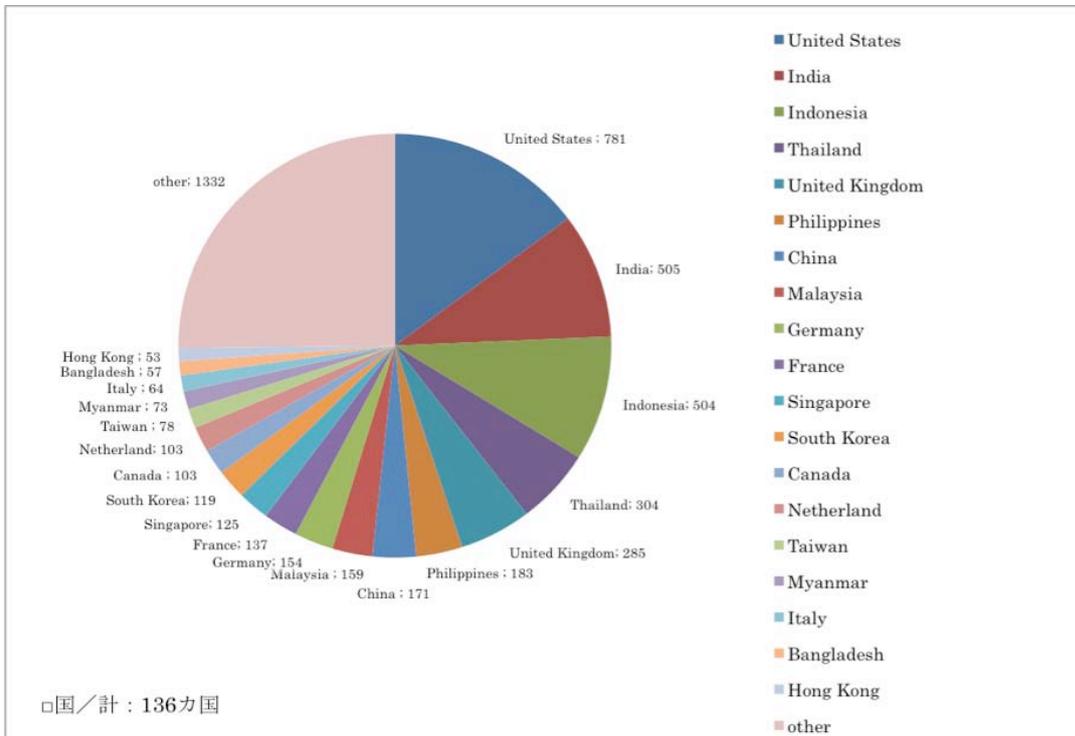


図 8：海外からの訪問者解析（平成 19～21 年度）（英語ページ解析）
（英語サイト解析）

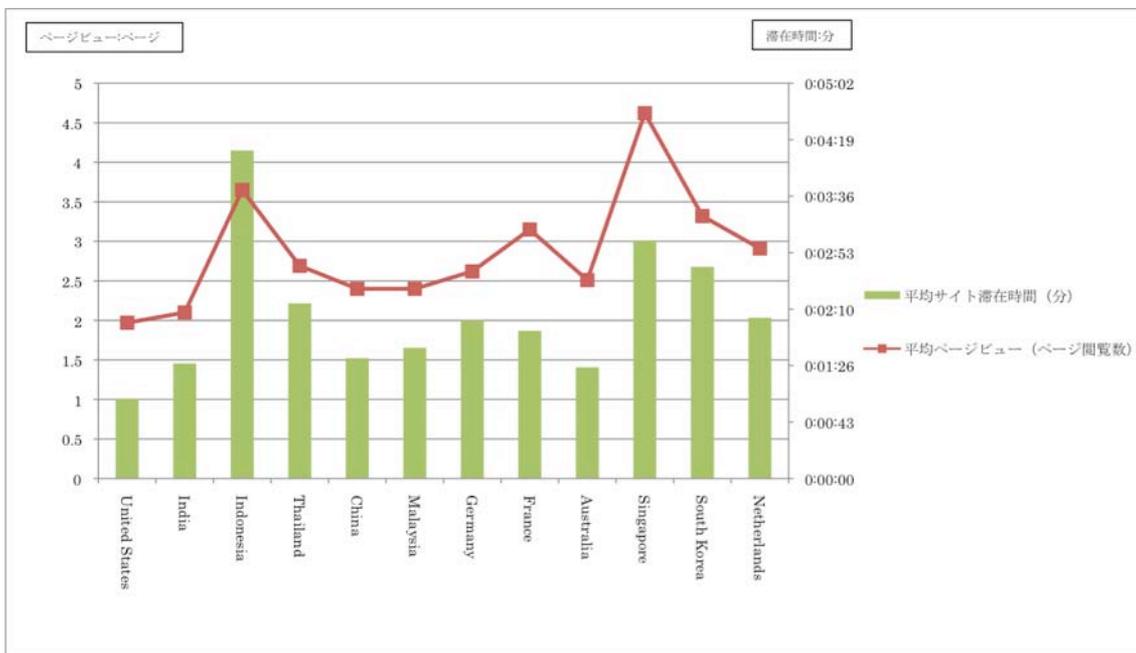


図9：海外からの閲覧状況（上位セッションを表示）（英語ページ解析）

まとめ

本年度も HP 運営体制のもと、日々円滑に HP コンテンツ作成がすすめられてきた。

その成果として公開されたページ数は、日・英ページ合わせて 2,565 ページにのぼり、1年間で約 1,000 ページの掲載がすすめられたことになる。

これは、HP 担当者がコンテンツ情報発信にむけて、各部会との深い連携による情報収集や翻訳などの作業を円滑にすすめられた成果である。

また、HP システム面においても、メンテナンスや HP サービス向上への努力をすすめたことを指摘できる。サーバ移転作業においては、新たにアクセス解析作業がおこなえるよう環境を整えている。

今後も引き続き、利用価値の高い WEB サイトをめざし HP 運営をすすめたい。